



1



2



3



4

- 1 演目「天乃岩戸開」の一場面。天之太玉之尊が「千代の御神楽」を舞う
- 2 水沢字稻荷田の神楽碑は創立百年を記念し建立されたもの。斎藤實が北下幅神楽を観た際に揮毫した「楽真想」の文字が刻まれる
- 3 北下幅神楽では、子どもたちによる活動も盛ん。きらびやかな衣装と鳥兜を身にまとい御神楽を演じる
- 4 平成19年には稲荷田大権現を数十年ぶりに復興。毎年、元旦に地域の家々を回り、門付けを行っている

奥州遺産

——ときを越え

受け継がれるもの——

第105回

奥州胆沢北下幅神楽

(市無形民俗文化財)

Ⅱ 水沢北下幅Ⅱ

水沢市街地を抜け西へ進むと、豊かな田園風景が広がる北下幅地区に至る。奥州胆沢北下幅神楽は、この地で農村部の暮らしの中に根をおろし、140年以上にわたり受け継がれてきた。

北下幅神楽の歴史は、稲荷田の千葉源五郎によって始まった。隣村の上幅神楽で学んだ源五郎は、明治8年、近隣の舞い仲間と共に北下幅神楽を創設する。西磐井郡の達谷神楽、水沢の瀬台野神楽と交流して習得と熟練に努めるとともに、さまざまな地域での神楽興行や他団体への伝授にも力を注いだ。そうした実績が認められ、昭和35年に旧水沢市無形文化財に指定された。現在は小学生から60代まで26人が所属。地元神社への御神楽奉納や神楽大会、芸術文化祭に出演するなど精力的に活動を行っている。五穀豊穰の幕を背に舞い続けてきた北下幅神楽——。親から子へと引き継がれてきた技と精神は、美しい田園風景と共に続いていく。

広告

●広告の問い合わせは、(株)東広社 (☎ 0197 64 1523)